

さとうきびの新植夏植におけるメイチュウ類防除対策について

県内全域において、さとうきび新植夏植圃場でのメイチュウ類（イネヨトウおよびカンシャシクイハマキ）の芯枯被害（図1）が一部圃場で多い状況です。今後の被害拡大が懸念されます。植付時からの計画的な防除がメイチュウ類の被害防止につながります。貴管下における防除対策のご指導をよろしくお願ひします。

1 メイチュウ類被害の発生状況

- (1) 沖縄本島地域における11月下旬の調査の結果、新植夏植での芯枯茎率は5.2%であった。
- (2) 宮古地域における11月中旬の調査の結果、新植夏植での芯枯茎率は3.3%（前年0.3%、平年2.8%）と平年並であった。一部の多発圃場の芯枯茎率は10.5～14.8%であった。
- (3) 多良間地域における11月中～下旬の調査の結果、新植夏植での芯枯茎率は6.2%であった。
- (4) 八重山地域における11月中～下旬の調査の結果、新植夏植での芯枯茎率は2.5%（前年0.7%、平年1.1%）と平年より高かった。また、一部圃場では芯枯れの多発発生がみられ、多発圃場での芯枯茎率は12.1～14.0%であった。

2 発生生態および被害

- (1) イネヨトウ（図2）
 - a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
 - b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
 - c 初期被害は圃場周縁部で見られ、圃場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。
 - d 被害圃場およびイネ科雑草地が発生源となり、新植圃場に侵入する。
- (2) カンシャシクイハマキ（図3）
 - a 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
 - b 卵は葉や茎などに1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
 - c ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす。
 - d 被害は圃場に散在的に発生する。

3 防除対策上注意すべき事項

- (1) 圃場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる（図4）。
- (4) 培土時には土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を選択し施用する。
- (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図1 イネヨトウによる芯枯れ



図2 イネヨトウ幼虫



図3 カンシャシクイハマキ幼虫



図4 葉鞘内へ十分に薬液を浸透させる

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★
TEL : (本所)098-886-3881、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0908-82-4933
ホームページアドレス : <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>